

芦屋の給食をめぐる おいしいつながり



一流料理人との「おいしい」つながり

和食給食を通して伝えたい

「スペシャル牛丼」はミシュランガイドで2010年から現在まで2つ星を獲得している名店「京料理 たか木」の高木シェフが考えたメニュー。芦屋の学校給食へ熱心に関わる高木シェフへ給食にまつわる質問をしました。

「スペシャル牛丼」はどうしてできた？

芦屋の小学校で毎年開かれる授業「味覚の一週間」。和食・フレンチ・イタリアンなど市内に店を構える8人のシェフが各小学校で「味覚」の授業を行い、栄養士と一緒に「コラボ給食」を考えます。スペシャル牛丼は、使う食材などを工夫して、いつでも給食に出せるメニューとして考えました。他にも色々な和食のメニューを栄養士さんと一緒に作っていますよ。

学校給食に関わる理由は？

昔はお米が中心の食生活でしたが、今では1日お米を食べない人も沢山います。これでは日本の食文化がダメになってしまう。飽食の時代だからこそ、農作物を作る農家さんへ

も恩恵が行く社会になってほしいと思います。そのためには子どもたちに“食”の大切さを伝える必要があります。毎日食べる給食は、日本の食文化を伝える絶好の機会だと思います。積極的に関わるようになりました。

学校給食で感じたことは？

私は日本料理人として、ダシ（うま味）を使った料理の大切さを伝えたいと思っています。でも給食室はダシをとる設備になっていません。当日調理した料理しか出せないの、食材に十分味を染み込ませることができず、美味しい和食を提供するのが難しいと思います。この環境のなかで、栄養士・調理師さん

は上手に工夫しながら、美味しい給食を作るため、頑張られていると思います。

芦屋の学校給食へひとこと

芦屋でお店を構えさせてもらっているからには、地域貢献は積極的にしたいです。これからも、味覚の一週間などさまざまな機会を通じて芦屋の学校給食に関わっていければと思います。芦屋の学校給食がもっともっと良くなるためなら、私の技術と知恵を惜しみなくお伝えしたいと思っています。

「京料理 たか木」



高木一雄（たかぎ かずお）氏

大阪「料亭北乃大和屋」に入店後、佐名木孟氏と「山荘京大和」へ移り、副料理長を経て2005年芦屋市に「京料理 たか木」を開店。「和食給食応援団」西日本代表を務め、全国各地の学校で講演や調理実習などを通して、次世代の子どもたちに「和食」や地産地消の大切さを伝えている。



映画監督との「おいしい」つながり

世界に誇れる芦屋の給食

「芦屋の学校給食」を題材に「食」を通して「絆」を描くヒューマンドラマが全国のスクリーンで2020年秋に公開予定。この作品の脚本・監督を務める白羽弥仁監督にお話を伺いました。

2017年発売の「芦屋の給食」という本を見て、学校ごとに作られている給食へのこだわりを知り、芦屋市がいま世界に誇れるものは“これだ！”と思いました。

食育という言葉をよく耳にするようになりましたが、子どもたちの“食べる”ということは身体と同時に、精神も形成するのだと思います。大袈裟な話ではなく、食が人間を形成していく。これだけ力を入れた給食を出している芦屋の学校では、「必ずいい子どもたちが育っているはずだ」と思い、2018年より取材をスタートさせました。

市内の小学校をまわり栄養士さん、調理師さんへのインタビュー・調理の現場や子どもたちが教室で給食を食べている様子取材して、給食も何度も頂きました。食べるたびに

「美味しいなあ」と思うのと同時に、どの献立も栄養面でもよく考えられていると感心しました。

保護者のかたへのインタビューで面白かったことは、給食の話題が親子のコミュニケーションツールになっていることです。学校から帰った子どもたちの第一声が“今日の給食は〇〇食べた”からはじまる。子どもたちの学校生活のなかで給食が大きなウエイトを占めているのだなと思いました。

私が撮る映画はヒューマンドラマ。ドキュメンタリーのような食の安全や食育の問題を直接取り上げるものではありません。学校給食を取り巻く人々、給食を作る人や食べる子

どもたちを描いていきます。この映画を見た全ての人を楽しみ気持ちになれるような映画を作りたい、現在、脚本を何度も改稿している最中です。実際の撮影ではセットを使わず、市内でのロケを中心にいきます。どの小学校を舞台にするのかは、まだ決まっていませんが、市内のどこかの小学校で撮影する予定です。

世界の学校給食も調べてみましたが、先進国でも給食に力を入れていない国もあれば、イタリアなど“さすが食の都”と思わせる給食もありました。それらと比べても、芦屋の給食は間違いなく世界に誇れるものだと思います。今回のこの映画を通じてそのことを世界へ発信していくつもりです。



白羽弥仁（しらは みつひと）氏

1964年芦屋市生まれ（神戸市在住）
日本大学芸術学部演劇学科演出コース卒業。
セピア・タウン（1984年）/She's Rain（1993年）/能登の花ヨメ（2008年）/神戸在住（2015年）/ママ、ごはんまだ？（2017年）の監督を務め、その他TVのCM制作も手がけている。